

みずのわ

学校だより 【第9号】

令和3年11月30日(火)
石巻市立石巻小学校

【師走の前に師が走る】

明日から12月、日一日と寒さが増しているように感じます。新型コロナウイルス感染症については一安心しているものの、新たな変異株が発生するなど、まだまだ予断を許さない状況ですので、引き続き「新しい生活様式」の下、教育活動を展開してまいります。

さて、12月のことを旧暦では、「師走」と呼びますが、これは、「先祖供養のために師（お坊さん）が忙しく走り回っていたのが語源である」と聞いたことがあります。もちろん、諸説ある中の一つであるとは思いますが、この「師」を「教師」、特に「本校の教師（教職員）集団」と置き換えてみた場合、本校の教職員は、師走前の10月から11月にかけての2か月間、とんでもない速さで、とんでもない距離を走り回りました。

もちろん、本当に走った訳ではありません。「非常に多くの仕事をした」という意味です。それもおそらく、これまで経験したことのないような量の仕事を多岐にわたって行ったと思います。

なぜかと言いますと、コロナが落ち着いたこの時期に、これまでできなかった授業や行事、研修等を集中して行ったからです。特に、研修については、定められたものだけではなく、大学の先生を招聘しての本校独自の研修をしたり、初任者対象の研修会場として授業を2回提供したり、その間にも教育実習生等を5人受け入れたり、本当にあらゆることがこの2か月に集中した感があります。

調べてみたら、担任等21名の教職員は、この2か月間、学校内外において、のべ202回の研修を受講しており、平均すると、一人当たり、4日に一度は何らかの研修を受けたことになり、いくら今がチャンスとは言え、働き方改革等業務改善が思うように進んでいない中、教職員には更なる負担を掛けてしまったという思いをもっています。

しかし、一方で、「研究と修養」こそ、教職員がその職能を高めるための最大の機会であると私は考えており、「忙しいから」という理由での妥協はしたくありません。「学ばざる者、教えるべからず」と言いますが、学力をはじめ子供たちの力を伸ばすためには、教員自身が力量を高め、質の高い教育を提供することが非常に重要なことだと思っています。

さらに、これは私個人の考えですが、子供たちの前に立つ者には、教育技術の向上に努めるだけでなく、山に登ったり、楽器を演奏したり、読書したり、ありとあらゆる体験を積極的に行ってほしいと思っています。体験の多さ、読書量の多さ、つまり個人の引き出しが多ければ多いほど、子供たちに還元できるものも多くなると考えます。

長かった2学期も、残す登校日数は17日となりました。本校の職員には、あと少し走り回ってもらいたいと思いますし、走らせるだけでなく、私自身も一緒に走り、子供たちの力を伸ばすことができるよう尽力したいと思います。

(校長／川田知宏)



「ペットボトルで作ったね」 鹿野 希風 作